

# 祈りには大きな力がある

ヤコブの手紙 5章 13-18節

## はじめに

2024年の最後の礼拝となりました。皆さんにとって2024年は、どんな一年だったでしょうか。苦しいこともあれば、嬉しいこともあったと思います。一年を締めくくるにあたって、私たちは神様の御前で、どのようにあるべきかを聖書から学びたいと思います。

### 1. 苦しい時、喜びの時には

13節には、「**あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい**」とあります。私たちは人生の中であらゆる苦しみを経験しますが、その時に私たちがまずすべきことは「祈り」と聖書は言うのです。もちろん苦しみの原因は様々ですから、苦しみを解決するために具体的な行動も必要だと思います。しかし、唯一の真の神様を信じる私たちクリスチャンがまず第一にすべきことは、「祈り」ではないでしょうか。

旧約聖書の詩篇には、こういう言葉があります。「**私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から**」(詩篇 121:1-2)。私たちの助けは、天地を造られ、今も生きて世界全体と私たち一人ひとりの人生を導いておられる主なる神様から与えられます。神様が不思議な御業によって、またあらゆる状況を用いて、あらゆる人を用いて、私たちを助けてくださるのです。私たちの助けの根源は、神様にあります。ですから私たちは、苦しみの時にはまず神様に祈ることが大切なのです。

そして私たちは、喜んでいる時、元気な時、平安な時には、神様を賛美しなさいと言われています。それは、私たちの喜びの根源、祝福や恵みの根源は神様にあるからです。ですから、喜んでいる時、元気な時、平安な時には、神様に感謝を込めて賛美し、神様の栄光をほめたたえるのです。

私たちの助けの根源は神様にあり、私たちの祝福や恵みの根源も神様にあります。大切なことは、私たちは、逆境の時も順境の時も、いつでも神様に向かって声をあげることです。苦しい時にはまず神様に助けを求め、喜んでいる時にはまず神様に感謝をささげることです。私たちは、浮足立ってすぐに具体的な行動に走ってしまうのではなく、自分自身や誰かに頼ったり、自分自身や誰かに栄光を帰してしまうのではなく、まず神様に祈り、まず神様に感謝や賛美をささげる、そういう姿勢を身に着けておくことが大切だと思います。

### 2. 特に病気の時には

私たちが人生で経験する苦しみの中でも、「病気」というものは非常に大きなものです。自分の病気や家族の病気は、私たちに大きな苦しみをもたらします。14 節にはこうあります。「**あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい**」。苦しみの時は祈ることが大切ですが、特に病気の際は自分だけで祈るだけでなく、教会の長老たちに祈ってもらうことが大切だと言われています。この「長老」というのは、牧師を含めた長老です。ここでは「長老たち」とありますから、牧師ひとりだけではなく、複数の長老たちに祈ってもらうことが大切なのです。

牧師や長老は、特に病気の人のために祈る責任があります。ですから、礼拝の「牧会と宣教の祈り」では、必ず病気のことを覚えて祈ります。そして時には、病床に訪問して祈りに行きます。先週の木曜日にも、田中兄のお母様のチツ子さんを訪問しました。先々週に続いて、二回目の訪問です。尿路感染症を患い、今は病院で寝たきりで、はっきりと言葉を発することもできません。元気な時に一度「オレンジカフェ」に来てくださって、そこで初めてお会いしました。訪問する時は、耳元で聖書を読み、短く聖書を説き、手を握ってお祈りをします。そしていつも最後に、「息子の賢さんが長年信じてきたイエス様という神様を、チツ子さんも信じて、すべてをお任せしてみませんか？」とお招きするようにしています。回を増すごとに、手を動かしたり、何かの言葉を発したりと反応があります。それがどういう意味での反応なのかは、私たちには今は分かりませんが、とにかく田中兄のお母様の癒しと救いを祈っています。

ここでは、「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい」とあります。祈ることは分かりますが、なぜオリーブ油を塗ることが求められているのでしょうか。聖書の中で、「オリーブ油」は様々な時に用いられます。料理の時に、火をつける時に、傷を癒す時に、化粧の時に、また王や祭司や預言者を聖別する時に用いられます。ここでは、傷を癒すための薬としてオリーブ油を塗るということが一つあると思います。祈りだけでなく、薬を用いる、この薬の効果が表れるように祈るということでもあると思います。現代で言えば、祈りだけでなく、病院での治療も受ける、そして病院での治療に効果が表れるように祈るということでもあると思います。

しかし「主の御名によってオリーブ油を塗る」とありますから、医療的な意味だけではないと思います。イエス様は「キリスト」であり、「キリスト」は「油注がれた者」という意味です。イエス様は、王・祭司・預言者として御業をなされます。その意味で、オリーブ油を塗るというのは、イエス様の臨在を現すものなのかもしれません。また聖霊も「油」に象徴されることもあります。ですから「主の御名によって、オリーブ油を塗って祈る」というのは、イエス様と聖霊の臨在の中で、病気の癒しのために祈るということでもあるのかもしれません。ちなみにカトリックでは、七つの秘跡の一つに「病者の塗油」というものがあります。まさしく今日の聖書箇所を根拠に、病人または臨終にある人に、司祭が油を塗って祈るということが現代でも行われています。

いずれにしても、病気の際には、自分だけで祈るのではなく、教会の牧師や長老たちに祈

ってもらふことが大切なのです。もちろん医療機関を用いることは大切ですが、私たちは命と死を支配しておられる神様、またかつてこの地上で多くの病人を癒やしたイエス様と聖霊の臨在のもとで祈ることも大切なのです。

### 3. 信仰による祈り

さてこれまで、苦しい時には祈るように、また病気の時には牧師や長老に祈ってもらふようにとありました。では、苦しい時また病気の時に、私たちはどのような祈りをしたらよいのでしょうか。15節には、こうあります。「**信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上げらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます**」。

私たちは、苦しい時また病気の時には、「信仰による祈り」をするようにと言われます。「信仰による祈り」は、病んでいる人を立ち上げらせ、罪の赦しへと導きます。つまり、「信仰による祈り」は、身体と魂の両方を癒やし、救うようになるのです。

ここでは、病気と罪の関係が語られています。私たち人間には、因果応報の考え方があります。人は自分の行いによって報いを受けるというものです。そのため、病気の原因に、その人の罪があると考えられることがあります。しかし聖書は、すべての病気の原因が、その人の罪にあるわけではないと教えています。例えば、旧約聖書のヨブは、足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で侵されましたが、それはヨブが試練の中でも神様を恐れるかを試すためのものでした。またイエス様は、生まれつきの盲人を見て、「**この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです**」(ヨハネ 9:3)と言われました。またパウロも肉体に一つのとげを与えられましたが、それはパウロが高慢にならないため、またその弱さにイエス様の恵みと力が現わされるためのものでした。ですから、すべての病気の原因が、その人の罪にあると考えることはできません。

しかし15節で、「もしその人が罪を犯していたなら」とあるように、その人の罪が原因である病気もあると聖書は教えているように思います。I コリント 11章でパウロは、聖餐式にふさわしくない仕方で、つまり自分自身をよく吟味せず、わきまえずに与った場合、「弱い者」「病人」「死者」が出るとあります。つまり神様の「懲らしめ」としての病気というのがあると言うのです。

しかし「信仰による祈り」は、その人の病気を癒やし、その人に罪の赦しを与え、その人の身体と魂の両方を救うことができると言うのです。

### 4. 大きな力が働く祈り

では、「信仰による祈り」とは、具体的にどのような祈りでしょうか。16節には、こうあります。「**ですから、あなたがたは、癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります**」。

「信仰による祈り」とは、ここでは「正しい人の祈り」と言い換えられています。「正しい人」とは、神様によって義と認められた人です。つまり、イエス様を信じることによって、

神様の御前に罪を赦された人です。これは、イエス様がその人の罪を十字架で完全に償われたからです。「正しい人」とは、決して罪を犯さない人ではありません。16 節にあるように、自分の罪を認め、イエス様を信じ、互いのために祈る人のことです。そういう人の祈りこそ、働くと大きな力があり、病気を癒やし、罪の赦しを与え、人を身体と魂の両方において救うことができるということです。

ここには、「癒されるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい」とあります。私たちの祈りに力を持つには、私たちはまず、神様に対する自分の罪を認め、神様の御前に告白しなければなりません。旧約聖書のイザヤ 59：1-2 には、こうあります。「**見よ。主の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ**」。私たちは祈りにおいて、神様にあらゆる願いをささげ、求めていることを打ち明けます。しかし私たちは、神様が私たちに求めていることに耳を傾け、神様が私たちに願っていることをしているのでしょうか。私たちは神様に求めるけれども、神様が私たちに求めていることは無視する、自分の求めていることは神様に聞いてほしいけれども、神様が私たちに求めていることは聞かない、それでは神様に無視されても、祈りを聞かなくても何も文句は言えないのではないのでしょうか。神様の言うことは聞かないけれど、自分の言うことは神様に聞いてほしい、それがいかに無茶苦茶な祈りであるか、よく分かっていただけたらと思います。

「癒されるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい」とあります。私たちは、神様に祈る前に、まず神様が私たちに何を求めておられるかを考えなければなりません。神様は人格のない方ではありません。神様には、私たちに求めておられることがあります。それは、聖書の中に書かれています。神様が私たちに求めておられること、それは自分の罪を認めて悔い改めて、イエス様を信じることです。そしてイエス様の御名のゆえに、大胆に祈ることです。それこそ、「信仰による祈り」であり、「正しい人の祈り」です。そういう祈りこそ、働くと大きな力があり、病気を癒やし、罪の赦しを与え、人を身体と魂の両方において救うことができるのです。

## **おわりに**

私たちは日々の生活の中で、どれだけ神様に祈っているのでしょうか。イエス様を信じる私たちクリスチャンの祈りは、働くと大きな力があるのです。時には、病んでいる人を癒やし、その人の罪を赦し、魂を救うこともできるのです。私たちは苦しい時、まず神様に祈っているのでしょうか。それとも自分の力で何とかしようと思って、右往左往しているのでしょうか。また喜んでいる時、元気な時、平安の時には、神様に感謝し、賛美しているのでしょうか。それとも幸せな生活は自分の手で手に入れたかのように考えているのでしょうか。

病気の時には、自分一人で抱え込まずに、牧師や長老に祈ってもらっているのでしょうか。また教会のみんなに祈ってもらっているのでしょうか。

また私たちは、自分の願いを神様に求めるだけでなく、神様が私たちに求めていること、願っていることにも耳を傾けているでしょうか。私たちと神様との関係が一方通行になっていないでしょうか。

神様は決して罪を犯さない人の祈りを聞いてくれるのではなく、自分の罪を認めて悔い改め、イエス様を信じ、イエス様の御名によって大胆に祈る人の祈りを聞いてくださるのです。私たちの祈りは、働くとき大きな力があるのです。私たちは、祈りの力をもっと信じなければなりません。

私には最近、祈りが応えられた二つのことがありました。一つは、「クリスマス礼拝に三十名の出席者が与えられるように」という祈りです。ここ最近の私たちの教会の礼拝出席者は二十名前後でした。11月頃から、「子ども食堂」でも「オレンジカフェ」でもクリスマス礼拝の案内をし、地域にも案内を配りました。そして教会でも、クリスマス礼拝を伝道の機会にしようとアピールしてきました。そのような中で、私個人の祈りの中で「クリスマス礼拝に三十名の出席者が与えられるように」という祈りに導かれていきました。すると、先週のクリスマス礼拝には、信徒の皆さんが家族や友人を誘い、オレンジカフェからも参加者があり、見事に三十名の出席者が与えられました。改めて、神様は今も生きておられる、私たちの祈りを確かに聞いておられるという経験をしました。

もう一つは、私の三女の歩祈の「信仰告白式」です。私の家庭では、夕飯の食前の祈りは私がするようにしています。そこで必ず祈ることは、「娘たちがイエス様を信じて、神様を愛し、人を愛して生きられるように」という祈りです。その祈りの一つが、先週の信仰告白式で応えられたと思いました。歩祈という字は、「祈って歩む」という字を書きます。「いつも神様に祈りながら人生を歩んでほしい」、そういう願いを込めて付けました。先週の歩祈の証しの中で、高校受験の不安とプレッシャーの中で、神様に祈ることを始めた、その祈りがクリスチャンとして生きる決心を固めたと言っていました。まさにその名の通り、「祈って歩む」子に育ったと、特別うれしく思いました。生まれてすぐに幼児洗礼を受け、15年間祈り続けた祈りが、ついに実を結んだという思いと同時に、神様は確かに契約に忠実で、必ず約束を守られる方であるという確信を強められました。

皆さん、私たちの祈りの力を決して小さく見てはなりません。私たちの祈りは、働くとき大きな力があるのです。私たちは、死んでしまった過去の神様を信じているのではありません。今も生きていて、私たちの祈りを確かに聞いておられる方を信じているのです。また不可能なことは一つもない、全知全能の神様を信じているのです。ぜひ皆さん、祈りの力を経験してください。祈りが応えられる経験を人生において重ねてください。そして、神様が今も生きておられる、全知全能の神様であるという確信を、一人ひとりが強められますように。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは私たちに祈ることを求めておられます。イエス様の名による祈りは、働くとき大きな力があります。しかし私たちはどれだけ祈ってきたでしょうか。当たり障りのない祈りや、

どうせすぐには聞かれないと半ば諦めの祈りをしてきたのかもしれませんが。今一度、祈りの力を信じさせてください。神様が確かに今も生きておられる方であることを、私たち一人ひとりに経験させてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。